

目 次

P1 令和 7 年 新年あいさつ 《特 集》	県支部長 福田 一郎
P2 協賛団体若手技術者の紹介 《活動報告》	宇都宮測量株式会社 渡邊 幸一 氏
P3 第 2 回 ワクワドキドキサイエンス（サイエンスカフェ事業）	県支部幹事 西谷 元則
P4 「9 月期 CPD 講演会」の報告	県支部幹事 日高 倫明
P5 「第 5 回宇都宮大学コラボレーションフェア」の報告	県支部幹事 西谷 元則
P6 「10 月期 CPD 講演会」の報告	県支部幹事 石附 尚志
P7 ものづくりに携わる浙江省科学技術庁地方職員との交流と産学官への訪問見学	県支部幹事 亀田 則男
P11 秋の科学技術講演会「近年の異常気象と気象情報の活用について」開催報告	県支部幹事 亀田 則男
P11 「12 月期 CPD 研修会及び交流会」の報告	県支部幹事 宮下 治
P13 広報委員長のよもやま話	県支部広報委員長 西谷 元則
P13 編集後記	県支部広報委員長 西谷 元則
P14 協賛団体紹介	

令和 7 年 新年あいさつ

県支部長 福田 一郎

謹んで新春のお祝いを申し上げます。会員、協賛団体、関係団体の皆様にとって、この 1 年が輝かしい年になりますよう御祈念いたしますと共に、日頃から当支部活動にご協力、ご支援を賜り御礼申し上げます。

昨年の活動を振り返ってみますと、CPD 研修として 6 月から毎月外部講師を招いて研修会を開催しました。特に 10 月は浙江省から県国際交流員として派遣されている李永春氏を招いて「北京紫禁城の建築技術及び芸術特色について」と題して講演をいただきました。

9 月 20 日、昨年に引き続き、「宇大コラボレーションフェア」に出展し、技術士や支部活動をパネル紹介すると共に、地域防災セッションでは 1998 年『那須水害と地域防災力』についての報告を行いました。男女共同参画小委員会では、6 月に元宇都宮大学副学長・藤井佐知子氏を講師に招いて、「男女共同参画の現状・女性理工系人材は増やせるか？」と題した講演会を開催しました。あらためて男女共同参画の視点から女性技術者を取り巻く環境に対しての現状と課題を勉強しました。

11 月には市民も対象とした科学技術講演会を開催し、気象予報士・防災士の福嶋真理子氏から気象情報の活用等について学びました。10 月、「さくらサイエンス事業」により浙江省科技訪日団（張要武団長）36 名を招聘し、企業や大学等を見学すると共に副知事を表敬訪問いたしました。これらの行事を開催するにあたり、担当した各委員会委員長はじめ役員の皆様には御礼を申し上げます。

本年は巳年です。脱皮をする蛇のイメージから巳年は「復活と再生」を意味し、新しいことが始まる年になると言われています。地球規模での気候変動、少子高齢化社会への進行、内外の政治不安が高まる中で、DX（デジタルトランスフォーメーション）、AI（人工知能）・IoT をはじめとしたデジタル技術等が日々進展しています。技術士は最新技術・情報を学び、俯瞰的視野に立って活動していく必要があります。

支部が発足し 14 年目、諸先輩が積み上げてきた実績を踏まえ、支部発足のモットーであります



「地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋」に少しでも資するよう支部運営に努力して参ります。特に支部会員約 250 名の資質向上の一助となる CPD 研修や地域貢献、中小企業支援等は各委員会が中心となって活動して参りますが、活動を支える役員の方々には引き続き下支えをお願いいたします。また、各行事には、多くの支部会員が参加していただきますようお願いいたします。

結びに、支部運営にあたりましては、引き続き「挑戦」「継続」「連携」に意を用いていきたいと思っていますので、協賛団体・関係機関のご支援を心よりお願い申し上げます。



《特 集》

協賛団体若手技術者の紹介

1.自己紹介

宇都宮測量株式会社

調査部 渡邊 幸一 氏

趣味：ドライブ、登山



以前は登山に行っても山に登るだけでしたが、測量業務に携わるようになってからは山頂で三角点を踏査することを登山の目的の一つにしています。

三角点は測量の基準としての用途は廃止されていますが、これからも歴史的価値のある三角点踏査することを趣味として続けていこうと思います。

2.経 歴

2021 年 3 月 中央工学校 測量科 卒業

2021 年 4 月 宇都宮測量株式会社 入社

3.若手技術者

・入社した動機

元々、境界立会に際する公図調査や測量に興味がありました。縁あって当社の業務に触れる機会があり、それから一念発起し測量を一から学び直し、入社しました。

・現在の仕事

普段、地籍調査事業関係をメインに業務を行っています。これからの地籍調査を担う者として、さらに知識や見識を深めていくとともに、仕事に生かせるようなプラスアルファの経験を積んでいきたいと考えています。

・現在の興味ある仕事

最新型のドローンを使った三次元点群測量のデータの解析処理ができるようになりたいと思っています。

・技術士に向けての取組

難関資格と聞いています。まずは一次試験突破を目指したいと思っています。

・将来の目標

調査・測量部門での経験を十分積み、その知識を活かし設計の建設部門で技術士として会社に貢献していきたいと考えております。

《活動報告》

第2回 ワクワドキドキサイエンス（サイエンスカフェ事業）

県支部幹事 西谷 元則

開催日時：令和6年7月28日 9:30～11:30

場 所：みずほの自然公園

スタッフ：井本、富田、水野、徳江、西谷（敬称省略）

参 加 者：11名（保護者6名）

今回のワクワクドキドキサイエンスは、キラキラママサークル宇都宮とのコラボレーションで開催しました。依頼者は「子育て支援キラキラママサークル宇都宮」で、参加者は小学1～5年生の11名が集まりました。

内容は、ペットボトルで虫かごを作成し、公園内の昆虫を見つけて採取。管理棟にもどり図鑑で虫の名前を調べ、昆虫をスケッチしました。終了後、捕まえた場所付近にリリースすることでした。

女の子は、「虫が怖い」と言っていたのですが、最終的には上手にスケッチして自慢げにみんなの前で報告していました。男の子は、『ハグロトンボを絶対捕まえる』と言ってなかなか帰ってきませんでしたが、最終的に楽しんでスタッフと会話をしていました。

私たちも今回初めての企画でスタッフと数度 Zoom ミーティングを開催し、富田さんの試作と準備のお陰で、無事成功することができました。井本さんの下見調査や水野さんや徳江さんの昆虫の種類を見分ける知識に感銘しました。

次回は、今回の反省点を踏まえ準備したいと思います。



写真-1 虫かご作成



写真-2 虫の採取



写真-3 同定の様子



写真-4 スケッチ中



写真-5 報告会



写真-6 記念撮影

「9 月期 CPD 研修会」の報告

県支部幹事 日高 倫明

1. 日時：令和 6 年 9 月 14 日(土)13 時 30 分～15 時 00 分
2. 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室
3. 講師と演題：株式会社パン・アキモト 取締役会長 秋元義彦 氏
『奇跡のパンの缶詰開発』
4. 参加者：24 名(会場受講：15 名、Web 受講：9 名)
5. 講演概要：

講師の秋元氏は、ホンダの創業者である本田宗一郎の言葉「不常識を非真面目にやれ」をモットーに、常識に捕らわれずに楽しく面白く仕事に取り組む人生観で、父親から受け継いだ会社は社会貢献を理念に掲げ、ビジネスと社会貢献を両立させる企業活動を展開されています。

パン・アキモトの代表的な商品“アキモトのパンのかんづめ”は、阪神淡路大震災時に被災者から保存性の高いパンの要望を受けて試行錯誤の末に缶詰のアイデアにたどり着き、多くの困難を乗り越えて実現化されたものです。東日本大震災では、このパンの缶詰を多くの被災地に届け、大きな社会貢献を果たされました。更に、賞味期限切れのパンを回収して国内外で配布する”救缶鳥プロジェクト”の説明がありました。自治体が購入する災害備蓄用のパンをリースにすることで賞味期限内に消費されなかった場合のリスクを軽減し、災害時には迅速に供給できるようにしているとのこと。さらに、クラウドファンディングを活用して資金を集め、国外の被災地にパンを送る国際的な支援活動も行っています。これらの活動を通じて、社会貢献と企業の持続可能性を追求し、リユースやリサイクルの重要性を強調されると共に、21 世紀の企業は利益だけでなく、社会貢献も重要であると述べられました。

被災地支援や社会貢献活動を続ける中で、多くの支援を受け、企業としての成長を遂げた背景には、秋元氏の信念と努力があったものと思います。さらに、技術の進歩により品質が向上することを期待して息子たちに理念の継承を託しておられ、社員教育に力を入れて技術者の育成を進めています。これにより、企業全体の技術力が向上し、社会貢献活動も継続的に行われ、パン・アキモトは社会に貢献し続ける企業として成長を続けています。この取り組みは、企業の持続可能性と社会貢献の両立を目指すものであり、努力と情熱がパン・アキモトの成功と社会貢献を支え、リーダーシップとビジョンが企業の未来を切り開いています。これからも、パン・アキモトは社会に貢献し続ける企業として成長を続けていくことでしょう。なお、講演の余興として、何の加工もしていない風船に針を刺す実演が行われました。



写真-1 秋元義彦講師



写真-2 研修会の様子



写真-3 風船に挑戦！

「第5回宇都宮大学コラボレーションフェア」の報告

1. 開催日：令和6年9月20日 10時～17時
2. 会 場：マロニエプラザ大展示場（宇都宮市）
3. スタッフ：福田、井本、金澤、西谷（敬称省略）
4. 参加団体数：298ポスターセクション
5. ポスターセクションの概要

A photograph of an exhibition space. Several large informational posters are displayed on the wall, featuring text and diagrams. A table in the foreground holds various brochures and pamphlets. A person is standing in the background, looking at the displays. The room has a high ceiling with exposed pipes and lights.

写真-1 ポスター展示の様子

「いちかい浮島プロジェクトは廃校を活用した試み」についてでした。、廃校の活用で困っている方に興味を持っていただけました。企業支援については、PR 不足もあったため、具体的な相談はありませんでした。

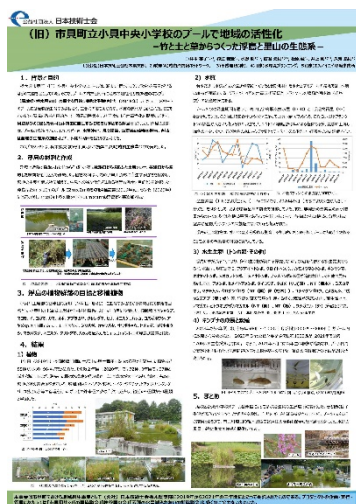


写真-2 県支部紹介ポスター

写真-3 いちかい浮島プロジェクト

写真-4 企業支援

6. 地域防災セクションの報告

地域防災セクションは、マロニエプラザの展示ホールで 13:30~15:20 で開催され、参加者は約 50 名でした。

事例報告では「株式会社ユーユーワールド 取締役社長の小川拓矢氏」、「遮断福祉法人健修会 介護老人福祉施設いずみ苑 施設長の西大路順子氏」、「日本技術士会栃木県支部 支部長福田一郎氏」の発表があった。2019年10月の台風19号の水害や11月の東日本大震災での被災状況と防災についての取組などそれぞれ説明した。その後、会場参加型パネルディスカッションが開催され、コメンテーターとして「特定非営利活動法人栃木県防災士会理事長 稲葉茂氏」、進行役として「宇都宮大学地域デザイン科学部教授 近藤伸也」により行われた。



写真-5 福田支部長の事例発表



写真-6 報告会の様子

「10月期 CPD 研修会」の報告

県支部幹事 石附 尚志

1. 開催日時：令和6年10月12日（土）13：30～15：00
2. 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室
3. 演題：北京紫禁城の建築技術及び芸術特色について
講師：栃木県産業労働観光部国際経済課地域外交担当 国際交流員

李 永春（り よんちゅん）氏

4. 参加者：日本技術士会栃木県支部 24名
5. 講演概要

①紫禁城の概況：紫禁城は、明の時代に建設され、火災による全焼、大和殿の放火、清の時代の修復と火事、再建の歴史があった。その後、北京政変で溥儀が紫禁城から退去後、故宮博物院が成立し、国民へ解放された。

②陰陽風水学と紫禁城：紫禁城の建造概念は、陰陽風水学に基づき設計されている。天宮の四つの方向を動物で表示、東：青龍、西：白虎、南：朱雀、北：玄武。五行と方向の対応、五行と色の対応、五行と季節との対応が大切に考えられている。

③レイアウトの特徴と象徴的な意味：前朝：皇帝が国家の行事、政治活動を行う場所、後寝：皇帝とその家族が居住し生活する場所。紫禁城の中心を南北に貫く重要な軸線を中心に大和殿など多くの宮殿が配置されている。このレイアウトは、皇帝権力の特化、天と地と人との調和の秩序、陰陽平衡、身分の尊卑、伝統的な美意識、風水学の考慮など、象徴的な意味がある。



写真-1 李 永春講師

④ 建築材料：建築材料は全国各地から河川などを利用して運ばれてきた。

⑤ 建築技術：大和殿は、高さ8.1mの土台の上に建設されている。耐震技術として、ほぞとほぞ穴により、半鋼結合構造を形成し、地震の揺れるエネルギーを、相対回転することで消散して、地震による被害を防いでいる。排水技術、火災に備える防護技術金箔技術など、優れた技術により、三百年耐えた木造建築となっている。これらの技術は「八大作」と呼ばれ、土作、石作、塔材作、木作、瓦作、油作、彩画作、裱糊作。中国の古代建築の構築技術に基づいて形成された、厳格な形制を持つ優秀で伝統的な官式建築施工技术が多く使われている。

⑥ 皇室庭園

⑦ 紫禁城の建築芸術の特色などの説明があった。



写真-2 研修会の様

ものづくりに携わる浙江省科学技術庁地方職員との交流と産学官への訪問見学

県支部幹事 亀田 則男

令和6年10月20日～26日に、公益社団法人日本技術士会栃木県支部は国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）の支援を受けて、中国浙江省科学技術庁の地方職員8名を招へいし、併せて自己負担による中小企業者28名を受け入れました。

この間、製造業各社および大学、栃木県の研究施設等を見学し、日本側の専門家との技術交流を精力的に行いました。

視察訪問先は JST の日本科学未来館、企業のパナソニックセンター東京、ブリヂストン栃木工場、資生堂那須工場、清風園、カルペ而今。それに栃木県産業技術センター、栃木県農業総合研究センター、宇都宮大学農学部。また中華人民共和国在日本国大使館と栃木県庁への表敬訪問をしました。

また、ものづくりに関するセミナーを開催しました。浙江省は栃木県の友好姉妹都市（令和6年は締結31周年）で、科学技術の交流に重きを置いています。そのため栃木県庁表敬訪問は熱烈な歓迎を受け、その様子は新聞三紙に掲載されました。

日本科学未来館では日本の先端技術に触れ、参加者全員大変興味を持って見学しました。中国にはこのような施設がないとのことで、子供たちが大勢見学している様子を羨ましがっていました。中華人民共和国在日本国大使館では「さくらサイエンスプログラム」で日本に招へいされたことの報告をしておりました。



写真-1 日本科学未来館前で記念撮影



写真-2 中国大使館で記念撮影

パナソニック東京センターでは普段見ることのできないビジネスゾーンを見学しました。



写真-3 パナソニック東京センター

ブリヂストン栃木工場ではタイヤ製造過程の見学の後、質疑応答が熱心に交わされました。現在、中国のものづくり中小企業の多くが5Sに取り組んでおり、5Sを徹底しているブリヂストン栃木工場には感心しておりました。

資生堂那須工場では、会社の成り立ちや工場の概要説明を受けたあと、化粧品の生産ラインや製品出荷ラインを見学。最後に質疑応答と色彩に関するワークショップを受講しました。

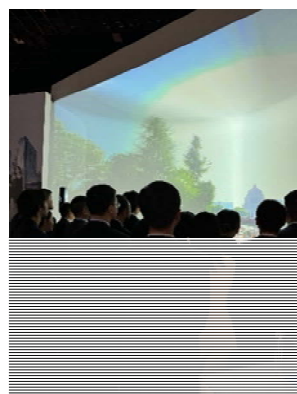


写真-4 パナソニック東京センター



写真-5 ブリヂストン栃木工場の前で



写真-6 資生堂那須工場玄関で

栃木県産業技術センターでは所長および担当者から業務内容や現在の体制の説明後、所内の各研究室を巡り、3Dプリンターによる試作品造形や匂いの分析室等を見学しました。

宇都宮大学農学部附属農場訪問では担当教授より、「ストロベリーとイチゴは違うもの」と題して、イチゴ市場の現状と新たな販路開拓、その市場価値について研究室で講義を受けました。



写真-7 出荷製品を見学



写真-8 栃木県産業技術センターにて

栃木県農業総合研究センターでは、所長や研究員からセンターの業務内容や体制の説明後、センター内の各実験施設を見学しました。



写真-9 宇都宮大学附属農場玄関にて



写真-10 栃木県農業総合研究センター所長を囲んで



写真-11 所員の説明を聞く団員

高齢者福祉施設の見学を2か所行いました。1か所目は県北地区にある「清風園」。職員の方から施設の説明を受けた後、介護の現場を見学しました。所内のイベント毎が数多く企画され、心のこもった介護の現場を感じることができました。

2か所目は県央地区にあるカルペ而今等グループの施設群を見学しました。最新の機器を取り付けたITベッドや看取りケア用に設けられた特別個室を見学しました。



写真-11 清風園で福祉機器の説明を聞く



写真-11 カルペ而今で福祉機器の説明を聞く

栃木県庁への表敬訪問では天利副知事および関係部局の方々から、盛大な歓迎を受けると共に歓談をいたしました。



写真-12 天利栃木県副知事への表敬
当支部主催の技術セミナーを開催。熱心な質疑応答がありました。



写真-13 栃木県議会棟での記念撮影



写真-14 講師による講演



写真-15 招へい者の聴講の様子



写真-16 最終日、修了書を持って

タイトなスケジュールでしたが充実した一週間を過ごすことができました。今後、更に関係構築を深め、人的交流を推し進めたいと思います。さくらサイエンスプログラムに深く感謝申し上げます。

秋の科学技術講演会「近年の異常気象と気象情報の活用について」開催報告

県支部幹事 亀田 則男

令和 6 年 11 月 9 日(土)、宇都宮市の栃木県職員会館「ニューみくら」において、フリーアナウンサー・気象予報士・防災士として活躍されている福嶋真理子氏を講師に「近年の異常気象と気象情報の活用について」と題した講演会を開催しました。参加者は技術士会会員 33 名と一般 24 名の計 57 名でした。

講師の福嶋氏(以下、氏という)は宇都宮市出身、2004 年 CRT 栃木放送入社、2013 年気象予報士試験合格、2019 年より NHK 宇都宮放送局気象キャスターとして、「とちぎ 630」の気象キャスターを務めています。

氏がアナウンサーを志したきっかけは、1985 年 8 月 12 日に発生した日本航空 123 便墜落事故。この小学校 5 年生の夏の出来事が、自身の将来の目標が明確になった時であるとのこと。数少ない情報の中、必死にその時々の情報を伝えるアナウンサーの姿をみて、自身も情報を伝える立場になりたいと思ったそうです。

気象予報士試験に合格したのは第 40 回の試験。その時の合格率は 5.5%で、栃木県内では 2 名だったとのこと。その他、県防災会議委員や NPO 法人栃木県防災士会理事を務めています。

晴天時の朝夕に現れる「ブルーモーメント」というグラデーション状の空色の変化の魅力や、天気予報や気象情報の見方、近年頻発に発生している異常気象について、その理由・原理等を写真や図表を基に、分かりやすく、そして具体的に説明していただいた。

異常気象についてはそれに伴い発令される災害情報についても、情報の正しい理解と行動の必要性を説かれました。そして、気象情報の活用についても線状降水帯を例に挙げ、その発生状況、呼びかけの精度について説明がありました。その中で、2029 年度を目標に市町村レベルまでの単位で発生の発表ができるよう、気象庁で取り組みを進められているとの情報提供もありました。

最後に「自分の命は自分で守る。常に最新情報を入手し行動すること」、それが氏の考える防災の基本であるとの話で 90 分間の講演が終了しました。ご参加いただいた皆様、誠に有難うございました。

「12 月期 CPD 研修会及び交流会」の報告

県支部幹事 宮下 治

1.12 月期 CPD 研修会

- 1) 日時：令和 6 年 12 月 14 日(土)13 時 30 分～15 時
- 2) 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」会議室
- 3) 講師と演題：公益社団法人日本技術士会 統括本部倫理委員長 塩原亮一氏



写真-1 福嶋真理子講師



写真-2 講演会の様子

『技術者倫理の理解に向けて』

4) 参加者：42名（会場受講：技術士22名、Web受講：技術士20名）

5) 講演概要：

講演会は、会場参加とWeb配信のハイブリッド方式です。

講演内容は、以下の項目で行われました。「(1)倫理創作事例で考えてみよう(2)新・技術者倫理要綱について(3)技術者倫理事例集について(4)技術者倫理事例集倫理Pe-CPD(受講証有り)について(5)Web版技術者倫理事例について(6)技術者倫理シンポジウム倫理Pe-CPD(受講証有り)について」の6項目です。

技術者倫理を分かり易く理解するために、「倫理創作事例で考えてみよう。」で「大地震時にコンビニが地域貢献した事例」を取り上げて、【自分の立場】【プロローグ】【その後の経緯】Phase 1、Phase 2の説明があり、その後に【課題】「みなさんの幸福のためにこのような努力をし始めたら、考え方が変わってきませんか？みなさんで考えてみてください。」との問いかけがあり、会場で話し合いの時間を設けて理解を深めた。

技術者倫理の改正理由、実践に繋げるための変更項目、技術士倫理要綱の新旧対照表などの説明があった。また、技術者倫理事例集の公開では、事例集の在庫がなくなったため、ダウンロードで入手してほしいとのことであった。

さらに技術者倫理の理解を深めるために、技術者倫理事例集Pe-CPDは、「考えてみよう」の考えた結果を受講者証明書に記載し受講証明を発行する。技術者倫理シンポジウムからCPDカウントのため、受講証ありの「技術者倫理に関するPEラーニングコンテンツ」を作成し、HPに公開中である。

技術者倫理について理解を深めるために、いろいろな方法で普及活動が行われていることが改めて理解できました。技術者倫理の理解を深めるためには、情報を入手して自分で考える習慣を持ち、身につけることが肝要だと思いました。



写真-1 塩原 亮一氏



写真-2 研修会の様子

2.交流会

1) 日時：令和6年12月14日(土)15時30分～17時30分

2) 場所：栃木県職員会館「ニューみくら」宴会室

3) 参加者：24名（技術士24名）

4) 交流会の概要

支部長の福田さんの開催挨拶に続き、幹事の水野さんの乾杯で交流会が始まりました。今年交流会は、コロナ禍前の雰囲気です。栃木県支部も10年が過ぎ参加メンバーが少しずつ変わってきていると感じました。支部会員が気兼ねなく交流を図れるのは全体会合の新合格者歓迎会、12月の交流会だけです。コロナ禍の影響と思います。参加者を見ると高年齢の技術士が多く、中堅世代（40～60歳代）の参加者が少ないのが残念に思



写真-2 交流会の様子

います。参加された方は、和気あいあいと談笑を楽しまれていました。

栃木県支部会員は正・準を併せて 200 名以上が登録されています。多くの年代層の参加に期待したいと思いました。

交流会は、幹事の江さんによる中締め挨拶と一本締めで、交流会が終わり感謝したいと思いました。



広報委員長のよもやま話

栃木県内の観光名所を紹介したいところですが、仙台市からの帰省中に立ち寄った、福島県二本松市の霞ヶ城公園について紹介します。

二本松城は、寛永 20 年(1643 年)に初代二本松藩主丹羽光重公によって近世城郭として整備され、十万石の大藩であった二本松が戊辰戦争で激しい攻防により、二本松少年隊の戦死などの悲話を残して落城しました。現在はその面影を石垣などにとどめ県立自然公園として整備され、日本百名城として多くの人が訪れます。

春にはソメイヨシノやヤマザクラなど約 2,500 本もの桜が咲き誇るらしいです。城跡全体を霞がかかったように桜が覆うことから霞ヶ城公園と言われているのかも・・・。

お昼は国田屋醸造が経営する蔵カフェ「千の花」でランチ。『温泉たまごかけランチ』(地元の温泉たまごに出汁醤油をかけたご飯)を頂きました。

編集後記

今回の会報より紙から電子媒体での会報になりました。時代の流れに伴うペーパーレス化となり、少し寂しい気もしますが、技術士としての特徴を感じます。さて、今年は日本技術士会の役員会改選の選挙があり、栃木県支部でも役員選挙が行われます。若返りを図る良い機会ですが、若手は『企業内技術士』や『子育て真っ最中』など多忙で、参加者が少なく、世代交代が進まない状況です。私も創立以来役員として活動に貢献してきましたが、活動のマンネリ化や、デジタル化に向けた県支部活動の必要性を感じています。

昨年から特集で協賛団体の若手技術者紹介を行っています。準会員(技術士補)の方々も県支部活動に参加していただき、栃木県の「地域と文化と技術の架け橋に！」貢献していただきたいと思います。人脈づくりや取引の拡大、知見を広げるなど多くのメリットがありますので、ぜひ活動への参加をお待ちしております。

最後に、「会報 21 号」の協賛団体の紹介で前田製管株式会社様の記載が漏れておりました。この場を借りてお詫び申し上げます。また、本会報の発刊にあたりご協力いただいた方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部 会報 第 22 号 2025 年 1 月発行

発行者 栃木県支部 (支部長 福田 一郎)

広報委員会：委員長 西谷元則

副委員長 徳江義宏、新井達雄、大島晃二

委員 大岩正通

事務局 〒321-0954 宇都宮市元今泉 5 丁目 9-7 宇都宮まちづくりセンター内

Tel: 028-678-8600/Fax: 028-678-8630

～栃木県支部を支えていただいている～協賛団体（五十音順）

 宇都宮測量株式会社	 株式会社 エスアイエイ 環境事務所 SIA Environmental Office
 株式会社 エース設計	 KUDOU SEKKEI 株式会社 工藤設計
 株式会社 格和測量設計	 KYOWA 協和測量設計株式会社
 株式会社 景観プランニング	 晃洋設計測量株式会社
 建設コンサルタント 株式会社シー・アイ・エス Construction Information Service	 株式会社 篠原設計
 株式会社 真和技研	 大日本ダイヤコンサルタント 関東支社 宇都宮支店
 DAIMICK 株式会社 ダイミック	 CER 株式会社 中央土木工学研究 Central Civil Engineering Research Co., Ltd
 TOA SURVEY 東亜サーベイ株式会社	 東洋測量設計 株式会社
 URC 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量全般 株式会社 都市開発コンサルタント	 株式会社 都市環境設計室 都市と自然をつなぐ。
 株式会社 栃木県用地補償コンサルタント	一栃木県職員退職者の熟練技術者～ 栃木県庁 OB 職員技術士会
栃木県県庁職員技術士会	 日研測量株式会社
 日昌測量設計株式会社 NISSHO SURVEYING DESIGN CO.,LTD	 NS 日本測地株式会社
 コンクリート製造販売・建設コンサルタント パスキン工業株式会社	 PCRW 株式会社 ビーシーレールウェイコンサルタント
 株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ	 富士コンサルタンツ株式会社
 フジ測量設計株式会社	 芙蓉地質株式会社
 前田製管株式会社	 株式会社 水環境プランニング
 株式会社 安田測量	 株式会社 緑生研究所